



10 尾上車山古墳

(岡山市北区尾上)



古墳時代前期(4世紀後半)に築かれたと推定される全長138.5mの大型前方後円墳。昭和47年に国の史跡に指定された。

標高45mの前方部を東に向けて3段に構成。上空から見ると前方後円墳の形がはっきりとわかる。後円部中央で、主軸方向に直交した竪穴式石室の所在も推定される。葺石がみられ、形象埴輪片や壺形埴輪片も出土。後円部の墳丘がぐるぐると開墾されていたために、地元ではギリギリ山古墳とも呼ばれている。

築造当時は、児島と本土との間の海域を眼下にできる要衝なので、この海域を支配していた大首長の墓と考えられている。飛鳥時代、吉備国を分ける時、前方部を備前、後円部を備中とした。(吉備の中山を守る会ホームページ<https://kibinonakayama.com/>より)



昭和40年代の様子(畑として開墾されていた)
昭和47年に国指定史跡となり現状復帰となった。



昔、神武天皇が九州から大和に行く途中、吉備の国に長い間滞在していて、いざ出発の時に家来の道主命(みちぬしのみこと)に「吉備地方を守れ」と命じた。そこで道主命は、花尻に住んでこの地方の支配者となり、代々豪族として栄えたとのこと。

その後、吉備津彦命(きびつひこのみこと)が四將軍の一人として吉備のこの地に来たとき、花尻に道主命の子孫の道麻呂(みちまろ)がおり、彼は吉備津彦命の軍にしたがって各地で戦い、手柄をたてたが、ついに戦死した。この尾上車山古墳は道麻呂が埋葬されている墓だともいわれている。



地元町内会により、毎年6月に草刈りと整備が行われている。



陵南小学校の総合学習授業にも取り入れられ、毎年小3の生徒が庭瀬かいわい案内人のガイドで訪れている。



墳丘測量図

墳長:138.5m

後円部(3段):径96m×高11m

前方部(2～3段):長56m×幅52m×高9m

(看板の2014年寒川史也氏文献より一部加工)

